

3.4 中古和文語の *nadepu*

中古和文語の *nadepu* は、九州方言の *dogeN* のやうに連體詞と副詞を兼ねる。その意味についての記述は畠山 (1972) に見られるが、注目すべきはその統語的振る舞ひである。次のやうに、*nadepu* は常に名詞(句)の直前に位置する。

- (11) a. [[なでふ]_{ADN} [女]_NNP が 眞名書は 讀む? (紫式部: 498)
 b. [[なでふ]_{ADN} [尼]_NNP にか なり給ふべき? (落窪、4: 228)
- (12) a. [なでふ]_{ADV} [[我が]_{ADN} [家など]_NNP 無き 所にて 御物忌み侍る? (落窪、1: 80)
 b. 今更 [なでふ]_{ADV} [[さる]_{ADN} [事]_NNP か 侍るべき? (源氏、椎本: [17] 356)

反語文 (11) の *nadepu* は連體詞と解釋し得るが、疑問文 (12) のそれは《理由》の疑問副詞と見るのが妥當だらう。連體詞の *nadepu* と副詞のそれは同時代に共存してゐるので、推定に留まるが、《理由》の疑問副詞 *nadepu* は、反語文における連體詞 *nadepu* が獨立して、副詞になったものと思はれる。

4 地理的分布

伝統方言話者 (同士による會話の機會) の減少や標準語・地域共通語の浸透に因り、日本語疑問附加部の地理的分布 (= どのやうな疑問附加部がどのやうな地域に分布してゐるか) は、現代においては見えにくくなつてゐる。とは言へ、先行研究に當たるだけでも、次のことは指摘し得る。

- (13) a. 徳川 (監) (1989: 146) に據れば、*ika* 系は著しく衰退してをり、文語色の強い *ika=ni* を除けば、次の地域にしか見られない。筆者の調査でも、鹿兒島縣北薩地方 (舊高尾野町、舊高城村、舊串木野市、舊市來町) で *ikeN* ‘どう’ を確認するに留まった。
 [16 富山] 礪波市; [32 島根] 石見; [46 鹿兒島] 阿久根市、南西諸島 (屋久島など) など
- b. 徳川 (監) (1989: 1681–82) に據れば、*dogai* 系は、東北地方、關東地方、中部地方では殆んど使用されてゐない。逆に言へば、關西地方以西には廣く分布してゐる譯である。また、中部地方以東であっても、山形縣、千葉縣夷隅郡、東京都伊豆諸島、新潟縣佐渡島などでは使用されてゐる。

日本語疑問附加部のうち、*dogai* 系は次のとほり地理的變種に富む。

子島 ●dogjan: [26 京都] 各地; [32 島根] 出雲; [40 福岡] 三井郡; [41 佐賀] ^{まだらとう}馬渡島、神埼郡; [42 長崎] 中流以下; [43 熊本] 各地 ●dogan: [13 東京] 八丈島; [33 岡山] 上房郡、吉備郡; [34 広島] 高田郡; [37 香川] 各地; [42 長崎] 各地; [43 熊本] 天草; [46 鹿兒島] 甑島里・中野・平良、種子島 ●rogan: [46 鹿兒島] 種子島 ●dogon: [13 東京] 八丈島 ●doke: [24 三重] 志摩郡; [32 島根] 出雲 ●dokaa: [33 岡山] 小田郡 ●togaa: [13 東京] 八丈島 ●dokon: [13 東京] 八丈島 ●da: [26 京都] 葛野郡 ●daa: [18 福井] ^{おにゅう}遠敷郡 ●don: [24 三重] ^{わたらひ}度會郡; [25 滋賀] 彦根市 ●donbee: [02 青森] 上北郡 ●donnai: [22 静岡] 志太郡など ●donne: [17 石川] 金澤市、石川郡; [21 岐阜] ^{ぐじやう}郡上郡 ●donnen: [24 三重] 伊賀市 ●donnee: [19 山梨] 各地; [20 長野] 上田市、諏訪郡 ●donai: [16 富山] 各地; [18 福井] 遠敷郡; [21 岐阜] ^{よしき}吉城郡; [23 愛知] 各地; [24 三重] 松阪市、尾鷲市古江町・梶賀町、北牟婁郡; [25 滋賀] 神崎郡; 彦根市; [26 京都府] 各地; [27 大阪] 大阪市、泉北郡; [28 兵庫] 各地; [29 奈良] 南部; [30 和歌山] 各地; [33 岡山] 眞庭郡、苫田郡; [34 広島] 各地; [36 徳島] 各地; [37 香川] 各地; [38 愛媛] 各地; [39 高知] 各地 ●done: [22 静岡] ^{みなみしたら}南設楽郡; [24 三重] 度會郡、宇治山田市; [29 奈良] 各地 ●donee: [23 愛知] 岡崎市、名古屋市; [28 兵庫] 赤穂郡; [32 島根] 石見; [33 岡山] 各地; [34 広島] 各地; [35 山口] 阿東町、阿知須町など; [42 長崎] 對馬 ●donjaa: [28 兵庫] 城崎郡; [33 岡山] 備中 ●dona: [15 新潟] ^{にしくびき}西頸城郡; [36 徳島] 各地; [37 香川] 各地; [38 愛媛] ^{しゅうさう}周桑郡; [39 高知] 幡多郡 ●donaa: [38 愛媛] 周桑郡 ●donoi: [31 鳥取] 東部; [39 高知] 各地; [42 長崎] 南高來郡 ●dono: [06 山形] 庄内; [26 京都] 葛野郡 ●donoo: [15 新潟] 佐渡島 ●donoa: [17 石川] 輪島市 ●doneN: [29 奈良] 吉野郡 ●donan: [37 香川] 各地 ●donon: [15 新潟] 佐渡島

5 意味論

5.1 《程度、様態》と《理由》を兼ねる疑問附加部

中古和文語は、《程度、様態》と《理由》を兼ねる疑問附加部 ika=ni を有する点で特徴的である。標準語の疑問付加部を形式と意味の両面から分類すると、[表 2] のやうになる。

表 2 中古和文語の疑問附加部

	程度	道具	資格	様態	方法	目的	理由
[ika=ni] _{N'}	✓			✓	✓		✓
[nani=ni=te] _{N'}		✓	✓				
[ika=de] _{N'}					✓		✓
[nani#sini] _{AdvCl}						✓	
[nado] _{Adv}							✓
[nadepu] _{ADN/V}							✓

それ／＼の具體例は次のとおり。

- (21) a. 疑問附加詞として用みられる要素のうち、共時的に副詞であるものゝいくつかは、節を含む疑問附加詞に由来する (§3.2)。
 b. 《理由》の疑問副詞 *nadepu* は、反語文における連體詞 *nadepu* が独立して、副詞になったものと思はれる (§3.4)。
 c. *ika* 系は著しく衰退してをり、文語色の強い *ika=ni* を除けば、鹿児島縣などには見られない (§4: (13b))。
 d. *dogai* 系は關西地方以西に廣く分布してゐる (§4: (13b))。
 e. 《資格》の表現は、N=OBL#ar- 型から { N(=ACC) / doo }#si-te- 型に變化したやうである (§5.1)。

記號一覽

.: 音節境界 -: 接辞 (= 附属形式) 境界 =: 接語 (= 附属語) 境界 +: 語幹境界 #: 統語的語境界
 []: 語/句/節境界 ///: 基底表記 (X): X は選択要素 X/Y: X ないし Y { X / YZ }: X ないし YZ *: 文法的に不適格 *: 再構形

略號一覽

?: 擴張 (extended) ADN: 連體詞 ADV: 副詞 CL: 節 N: 名詞 P: 句 V: 動詞
 ACC: 對格 COM: 共-様-引用格 COND: 條件 DAT: 與-格-處-様格 EMPH: 強調 GEN: 屬-主格 INST: 具-處格 IRR: 非現實 MED: 連結 NL: 準體 NL: 準體-連體 NOM: 主-屬格 NPST: 非過去 OBL: 斜格 PST: 過去 PURP: 目的 Q: 疑問 TOP: 主題 (機能形態素の意味のうち、多義的なものは大文字で表す)

参考文献

- エディス オルドリッチ (2015) 「上代日本語における疑問詞の位置について」、『國語研プロジェクト レビュー』、Vol. 5-3、pp. 122-34、国立國語研究所
 大坪 併治 (1983) 「漢文訓読文におけるナゼニの成立をめぐって」、『國語學』132、pp. 1-10、國語學會
 熊谷 政人 (2006) 「レ系指示詞+ガヤウ」考」、『語文研究』102、pp. 36-45、九州大學國語國文學會
 黒木 邦彦 (2014) 「日本語の疑問付加部の構造と意味に見られる一般性」、『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究 研究報告書』1、pp. 69-77、国立國語研究所
 国立國語研究所 (編) (2001-08) 『日本のふるさとことば集成』1-20、國書刊行會
 国立國語研究所 (編) (1989-2006) 『方言文法全国地図』1-5、財務省印刷局
 迫野 虔徳 (2002) 「指示詞におけるコソアド体系の整備」、『語文研究』94、pp. 1-12、九州大學國語國文學會
 高山 倫明 (1992) 「清濁小考」、田島 毓堂・丹羽 一彌 (編) 『日本語論究 2 古典日本語と辞書』、pp. 17-56、和泉書院
 徳川 宗賢 (監)、徳川 宗賢・佐藤 亮一 (編) (1989) 『日本方言大辞典』上・下・別巻、小學館
 中村 幸彦・岡見 正雄・阪倉 篤義 (編) (1982-99) 『角川古語大辞典』1-5、角川書店
 畠山 義和 (1972) 「『源氏物語』中心に見る疑問詞の扱い」、『湘南文學』5-6、pp. 69-82、東海大學日本文學會

平山 輝男 (編) (1992-94) 『日本方言大辞典』 1-8・補巻、明治書院

松井 栄一・林 大ほか (編) (2000-02) 『日本国語大辞典 第二版』 1-13・別巻、小學館

柳田 征司 [1978] (1991^{2nd}) 「第一節 『ドウ』(如何) の成立」、『室町時代語資料による基本語詞の研究』、
pp. 1-28、武蔵野書院

Huang, C.-T. James. (1998). *Logical relations in Chinese and the theory of grammar*. Revision of the author's
Ph.D. dissertation, Massachusetts Institute of Technology, 1982. New York: Garland.

Murasugi, Keiko. (1992). Locative/temporal vs. manner/reason phrases. 金城学院大学論集: 英米文学編. Vol.
33. pp. 153-70. Nagoya: 金城学院大学.

ほたるがいけ

くろき くにひこ (神戸松蔭女子学院大学; 螢池言語研究所)

E-mail: nihon5_no_ken9@yahoo.co.jp

HP: <http://hotarugaikegengokenkyuuzyo.web.fc2.com/>